

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200288		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホーム いわき		
所在地	青森県弘前市大字一町田字村元711-3		
自己評価作成日	平成23年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成23年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気重視し、理念に掲げ支援している。家族からそのような印象の声がある。地域と関わりを持ち、互いに行事に参加し合い交流を深めている。全職員が内外に研修に参加したり、資格に意欲を燃やしケアの向上に努めている。介護分野の他に、栄養士、調理師、看護師の資格があり、多方面からサービス提供ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

入居者の能力を活かしながら、家庭的な雰囲気を作るために日常の中にさりげなく役割を取り入れるなどし、自然に活動できるよう支援されている。又、地理的な環境にも恵まれており、入居者が希望する時は頻繁に買い物などに出かけられるような体制があり、楽しみにもなっている。 ケアプラン作成についても、常に向上心をもってその人に着目した具体的な内容で目標を作ることを中心がけており、日々のケース記録でも反映されるような仕組みを作っている。 職員の外来者への対応も友好的であり、普段の地域とのつながりにおいても積極的に活動されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をつくり、サロン、休憩室、会議室に掲示し集会時に唱和して実践につなげている。	全体会議の時に唱和し、職員全員が理念について理解されている。ケアにあたっては、理念に掲げている家庭的な雰囲気を目標とし日々の支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ買い物、レストランに食事に出かけて楽しんでいる。また、地域の夏祭りに参加している。	町内会に加入し、地域総会や宵宮などにも参加されている。野菜の収穫時期になると、近隣の方や以前入居されていた方の家族から差し入れを頂く等の交流が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進委員会に日常生活の報告や研修で知り得た事を一緒に学習している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の日常生活を報告や行事報告等をしてアドバイスをもらっている。	日常の様子や行事、研修会について報告し、参加者からは質問や意見、要望が寄せられている。そこで出された要望や提案は日々のサービスの向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員会に出席してもらい、質問・助言等を得ている。	担当課に自己評価や外部評価結果について相談している。また、困難事例には市職員が事業所へ訪れ対応する等の協力が得られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外部での研修、施設内で学習で理解しており、基準に沿って取り組んでいる。	身体拘束をしない姿勢を明確にし、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、内外部研修で学習しているため全職員が理解されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が外部での研修、施設内での学習で理解しており、基準に沿って取り組んでいる。内外で学び、おきないように注意し防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や学習会等で理解している。現在必要とする利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている。不満、疑問には即対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事や推進委員会、面会時等の来所の際に意見を聞いて反映している。	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時や行事参加時に入居者の近状を伝えるとともに要望を聞いている。寄せられた意見、要望はすぐ職員で話し合い改善されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体集会を設け意見や提案や提案を聞いている。また日常業務の中でも意見を聞いて反映させている。	全体会議の事前に職員の意見、提案を集約する機会を設けることで、全職員の意見を運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の資格取得を奨励に欠けるところが見受けられる。やりがいのある環境、条件の整備にもう少し力を入れてほしい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には個々に合った研修に参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネット会議に出席し情報交換している。互いの行事に参加し交流を深めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声を掛けて本人の要望を聞きよりよい生活が送れるよう、コミュニケーションが取れる様ようめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴し要望に答えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりしたアセスメントを取り必要な援助見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で共に生きるという意識を持って対応し、本人の持っている知識等もらいながら共に暮らしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話をかけたり、訪問時話し合い双方の絆が崩れないよう配慮して共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や知人に電話をかけたり、受けたりしている。また、行ったり来たりしている。	家族が遠方にいる方には、定期的に通信や写真を送り近状報告している。また、本人が希望する理・美容院に家族と一緒に出掛けるなど、これまで大切にしてきた人や場所の関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛けながら、いたわり合いながら、支え合いながら関わりを持って生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に行ったり、家族から相談があれば応じ支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントをとり希望、意向の把握に努め、カンファレンス、会議等において検討している。	センター方式を活用しアセスメントに取り組みながら、入居者一人ひとりの思いや希望を汲み取れるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で情報をとりながら生活歴を把握し、馴染みのある暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の出来る、出来ない用紙を利用し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望、カンファレンスを開きスタッフの意見を聞きながら作成している。	入居者、家族、全職員の意見を反映させ介護計画を作成している。3か月に1回の見直しを明示しているが状態に変化があった場合やカンファレンスで見直しが必要になった場合にはその都度、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の記録を付けながら見直し期間において、職員の情報を取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し、柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや衣料店に買い物に出かけたり、食事、ソフトクリームを食べに行ったりして生活を楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々がかかりつけ医を持ち、受診日には情報提供して安心した医療が受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を継続している。受診の対応については家族と話し合い臨機応変に対応できるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員に相談し、入居者が適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と情報交換している。特に退院時には医師の説明を受け、退院後の生活が安心できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と話し合い理解をしてもらっている。かかりつけ医、地域の医師、救急隊員の協力を得ている。	契約時に重度化や終末期には対応していない旨を家族に説明している。	入居者や家族がより安心してサービスを利用できるよう、重度化になった場合どの段階までホームで対応可能であるかを具体的に文書化し、できるだけ早い段階から全ての関係者と話し合うことを今後の取り組みとして期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の出前講座を設けマニュアルに沿った訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、マニュアルに沿った訓練を行っている。町会や近隣住民の協力を得る事ができる。災害時に必要な備品・常備食を準備している。	地域住民や消防署の協力を得て避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々が意識を持って対応している。研修会の参加、施設でも研修会の報告を兼ねて学習会を行っている。	内外部研修でプライバシーについて全職員が学習し、理解している。トイレ誘導の際もさりげなく声掛けするなど人格の尊重やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択、好きな飲み物を選ぶ等個々に応じた自己決定がだせるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思優先し、ドライブ、買い物、散歩、ゲーム、朗読等をして支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外へ洋服を買いに出かけたり、毎日の洋服の選択のアドバイスをしている。本人の希望に合わせて散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューに要望を取り入れている。昼食作りの簡単な手伝い、お茶のカップ洗いをしている。個々に担当スタッフと外食に行っている。	食事の準備や後片付けは曜日毎の当番制になっており、入居者は当番表を見て自ら行動できるように支援されている。また、職員も一緒にテーブルでさりげなく見守りしながら、楽しい雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、きざみ、粥、軟菜等個々に合わせている。持病の方、カロリー、塩分を考慮している。お茶時以外にも申し出れば飲めるよう用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ない人には毎食後、声掛け、見守りで行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、声掛け、トイレ誘導し自立に向けた支援を行っている。	おむつを使用している方はおらず、リハビリパンツ、失禁用パンツを使用されている。排泄のチェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量に気を配り、歩行運動、散歩、軽体操に心がけ一緒にやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	希望に合わせた入浴はなかなか出来ない現状ではあるが、必要時にはシャワー浴、要望があれば1人風呂を用意している。	週2回の入浴日の他に、入居者の希望があったり、汗をかいたりした時にはシャワー浴等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々によりサロンで傾眠、自室で短時間の昼寝しながらも夜間眠れるように、日中レクや軽体操を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の申し送りで内容を理解し、変化がある時はかかりつけ医に相談し受診している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でゴミ出し、お茶のカップ洗い、テーブル拭き等役割をもちながら、趣味や興味のある物を見出し変化のある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調を見ながら行きたい所に出かけられている。地域でも催している文化祭、展示会、夏祭りに出かけている。家族と外食に出かけたり、兄弟や知人の所に連れて行く。	買い物や散歩、遠足等、入居者の希望に合わせた外出支援が行われている。また、法事やお通夜に出席される際は家族の協力も得られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を管理し、夏祭りや遠足、外出時に使って楽しんでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚や友人に電話をかけたり、かかってきたりして楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けを居心地よく過ごせるように工夫している。	目の届くところにマルメロやカリンを置いたり、折り紙で作成した壁画が飾られ季節感が感じられる。また、温度、湿時計が設置され適切に調整、管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンのソファで話をしたり、テレビを観たりしている。Cサロンでは本を朗読したり、ゲームをしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に馴染みの物、仏壇、家族の写真、本人が作った等を置いて居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には使い慣れた椅子や身の回り品、位牌等を持ち込まれており、本人が安心して生活できるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干場はスロープをつけ干し物に出れるようにしている。また任務分担表で交替でカップ洗い、テーブル拭き等を行っている。		